



横手城(朝倉城)は、1550年頃、現在の秋田県南部に勢力を築いた戦国大名小野寺氏によって造られたと伝わる。横手城は前を横手川が流れ、背後は奥羽山脈へとつながる山々によって護られる、天然の要害に建てられた平山城である。城を取り巻く急斜面には石垣を築く代わりに葎を植え、土くずれを防止するとともに、敵の足元を滑らせて這い登ることができないように工夫されており、別名を葎城ともいう。

慶長6年(1601年)、城主小野寺義道は関ヶ原の戦いで西軍についたとみなされて所領没収、石見国(鳥根県)へ流された。翌7年、水戸から秋田へ国替えになった佐竹義宣は、本城である秋田久保田城の支城として横手城を位置づけ、城代を配した。初代城代には伊達盛重(政宗の叔父)が任命され、続いて須田氏、戸村氏へと明治に至るまで代々城を護り継いだ。しかし、慶応4年(1868年)戊辰戦争で新政府側についた秋田藩は近隣諸藩の侵攻を受け、横手城も庄内藩や仙台藩の大軍に攻められ炎上、8月11日ついに落城した。

明治12年(1879年)かつての本丸跡には、藩主佐竹氏を祀る秋田神社が、二の丸跡には昭和40年(1965年)天守閣型展望台が建てられ、市民からお城山と呼ばれ親しまれている。



- 1550頃 小野寺氏が現在地に朝倉城(横手城)を築き本拠とする
- 1601年 関ヶ原の戦いで城主小野寺義道が石田・上杉方についたとみなされ領地没収
- 1602年 横手城が佐竹氏に明け渡され、久保田城(秋田市)の支城となる
初代城代に伊達盛重(政宗の叔父)就任
- 1603年 二代城代に須田盛秀が就任
- 1624年 本多正純・正勝親子が横手に配流、幽閉される
- 1672年 五代城代に戸村義連が就任
以降、明治まで戸村氏が城代を継承する
- 1868年 戊辰戦争で庄内藩、仙台藩に攻められ焼失、落城
- 1879年 本丸跡に秋田藩祖佐竹義宣を祀り、秋田神社を建立
- 1965年 横手城二の丸跡に展望台を築造



秋田神社

戊辰戦争により横手城が焼失した後、明治12年(1879年)秋田藩主佐竹氏を祀って本丸跡に建てられた。その資材には焼け残った横手城の遺構が使われたとされ、社を支える柱には戊辰戦争時の銃弾痕が残る。



七曲

横手城の登城口として現在まで残る古道。山のふもとから高さ50mほどのつづら折りを登ると、横手城の大手門跡および武者溜跡にいたる。

開館期間 4月1日—11月30日

※2月の雪まつり期間中は臨時開館
※年数回臨時休館あり

開館時間 午前9:00—午後4:30

入館料 100円 ※中学生以下は無料

(かまくら館、石坂洋次郎文学記念館、
後三年合戦金沢資料館との共通入館券)

問合せ 秋田県横手市城山町29-1
横手公園展望台
TEL 0182-32-1096

H P <http://www.city.yokote.lg.jp/kanko/page000004.html>

Twitter @tomura_kun

横手公園 展望台



横手城代「とむらくん」